天気

	きょう	6時	9	12	15	18	21	24	あす
北部	14 0 (60) ↓	☁	☁	☁	☁	☁	☂		☂＞☁ 10 4 (70)
南部	13 0 (60) ↗	☁	☁	☁	☁	☁	☂		☂＞☁ 9 4 (70)

週間天気

北部

15日（火）	16日（水）	17日（木）	18日（金）	19日（土）
☀｜☁ 15 2 ⑳	☀｜☁ 20 2 ⑳	☀｜☁ 22 5 ⑳	☁｜☂ 21 7 ㊿	☁｜☂ 19 9 ㊿

南部

15日（火）	16日（水）	17日（木）	18日（金）	19日（土）
☀｜☁ 14 2 ⑳	☀｜☁ 19 2 ⑳	☀｜☁ 21 5 ⑳	☁｜☂ 20 7 ㊿	☁｜☂ 18 9 ㊿

＞ のち　｜ 一時・時々　☂ 5ミリ未満　☂ 5ミリ以上
数字（上）最高気温
（下）最低気温
丸囲みは降水確率
白ヌキは50%以上
↘は正午の風向き
矢印なしは無風

こよみは下に掲載

日本三景［公式サイト］
陸前松島　丹後天橋立　安芸宮島
日本三景　検索
http://nihonsankei.jp/
日本三景観光連絡協議会

奈良

自治会ニュースコンクール

真美ケ丘が最優秀

香芝・4年連続　24団体参加

自治会などが発行するニュースや新聞の内容を競う「自治会ニュースコンクール2015」（同実行委主催、毎日新聞奈良支局など後援）の表彰式が12日、河合町のまほろばホールで開かれた。県内5市6町から24団体が参加。最優秀賞には、香芝市の真美ケ丘自治会が発行する「まみがおか」が4年連続で選ばれた。

【矢追健介】

河合・泉台に毎日新聞社賞

コンクールは2011年から開催。東日本大震災で、住民の情報共有手段として紙媒体が重要な役割を果たしたことをきっかけに、自治会が作る新聞などを通じて地域の連帯意識などを高めようと始まった。

ニュースを年2回以上発行していることなどを応募条件に、全体的な構成や見出し、記事の内容などが審査された。表彰式では、元毎日新聞論説委員の津野恭誉・審査委員長が「高齢化による生活の安心安全面への危機感が多く見受けられた。防災避難対策が広がっていると感じ、それを支えるツールになっている。意を強くしている」と総評を述べた。

毎日新聞社賞には、河合町の泉台自治会が発行する「泉台ニュース」が選ばれた。「1969年の創刊から毎月発行され、紙面が醸し出すほのぼの感が独特」と講評され、落とし物のお知らせなど、きめ細かで地に足をつけたニュース作りが評価された。

他の受賞・参加団体は次の通り。

【優秀賞】ふれあい（奈良市・東登美ケ丘地区自治連合会・社会福祉協議会）【特別奨励賞】高塚台二丁目ニュース（河合町・高塚台二丁目自治会）▽あすか野新聞（生駒市・あすか野自治会）▽西真美だより（香芝市・西真美自治会）【奨励賞】「パイオニア賞」会長NEWS（奈良市・西新在家町自治会）▽「レイアウト賞」緑ケ丘自治会だより～あいさつのある緑ケ丘～（生駒市・緑ケ丘自治会）▽「防災賞」近助・防災ニュース（王寺町・天平台防災会）▽「創刊賞」自治会報みそのみんなの広場（王寺町・みその自治会）【その他の参加団体】五條市自治連合会▽御所市・北十三自治会▽生駒市・月見ケ丘自治会▽同・東松ケ丘自治会▽香芝市・香芝・旭ケ丘ニュータウン自治会▽三郷町・三室自治会▽三宅町・石見自治会▽田原本町・笠縫自治会▽同・大門東自治会▽広陵町・馬見南1丁目自治会▽河合町・久美ケ丘自治会▽同・城古▽同・星和台自治会▽同・高塚台自治会

最優秀賞を喜ぶ真美ケ丘自治会の中村信夫会長（左）と佐々木六郎事務局長

新企画で飽きこない工夫　「まみがおか」

最優秀賞の「まみがおか」を発行する真美ケ丘自治会。1985年の自治会結成から３月号で194号となる。広報部員約20人が２カ月に１度、Ａ４判８ページの冊子を約1500部作製。全戸に配布し、市役所や学校などにも配る。

「なかよく　住みよく　暮らしよく」という自治会理念の下、年初に年次計画を立て、身近なニュースなどを加えて作り上げる。見出しや写真、イラストなどを工夫したり、飽きないように数年に１度、新企画を練る。

審査委員からは「自治会のコンセプトが紙面の隅々に行き渡っている。自治会ニュースの一つの到達点」と絶賛された。

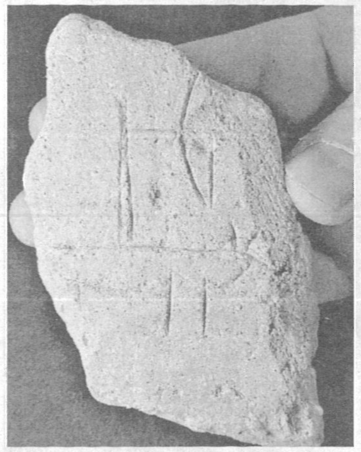
中村信夫会長(71)は「楽しんで作っています。自治会の活発な活動が反映された紙面が評価され、大変うれしく思う」と話した。

毎日新聞社賞に選ばれ、表彰される泉台自治会のメンバーら＝河合町のまほろばホールで

騎射の姿 リアルに

上ノ山古墳調査報告会　線刻ある埴輪片出土

村瀬陸技師



騎射する人物とみられる線刻画がある埴輪片＝奈良市で

騎射する人物を線刻したとみられる埴輪（はにわ）片が出土した上ノ山古墳（奈良市田中町・天理市中之庄町、6世紀前半）の調査報告会が12日、奈良市大安寺西の市埋蔵文化財調査センターであった。調査担当の村瀬陸・同センター技師は「矢を射た直後、弓が反転する『弓返り』をリアルに表現している珍しい例で、弓道史上でも貴重」と発見の意義を述べた。

古墳は破壊されて墳形が失われており、同センターの2014年5～6月の発掘調査で、全長34㍍以上の前方後円墳と判明した。ヤマト王権の有力豪族、小野氏や春日氏の首長墓とみられている。埴輪片は家形埴輪の一部とみられ、前方部付近から出土し、縦12㌢、横7㌢。絵は馬のような動物の上に乗った人物が弓矢を引く、騎射の場面に見える。一方、人物は動物に乗っていないとみて、「狩人と猟犬」の絵と解釈する研究者もいる。

日本書紀には456（安康天皇3）年に大（おお）泊瀬皇子（はつせのみこ）（後の雄略天皇）が騎射で、いとこの皇子を殺したと記述されている。また古墳時代中期以降、馬具が古墳に副葬されるようになり、騎射に代表される大陸の騎馬文化がこのころ伝わったとされている。

村瀬技師は「騎射であっても、狩人と犬でも、埴輪に描かれた絵としては他に例がなく、判断も難しい。古墳からは大量の埴輪が出土しており、埴輪祭祀（さいし）の全体像から絵も考えていきたい」と話した。

埴輪片は同センターで開催中の春季発掘調査速報展で31日まで展示されている。問い合わせは同センター（0742・33・1821）。【皆木成実】

全国大会かけ35人熱戦

ジュニア本因坊　関西大会始まる

大　阪

熱戦を繰り広げる出場者ら＝大阪市中央区の日本郵政グループ大阪ビル講堂で

「ゆうちょ杯第19回ジュニア本因坊戦全国大会」（毎日新聞社主催、全国こども囲碁普及会共催、ゆうちょ銀行特別協賛、日本郵便協力）への出場をかけた関西地区大会が12日、大阪市中央区の日本郵政グループ大阪ビル講堂で始まり、小中学生35人が熱戦を展開した。

大会は13日も開か

日時 3月21日（振替休日）午前10時～午後3時

きょうはこんな日

あすのこよみ
3月14日（月）

母なる海からの